CASBEE®あいち　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き　|使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要

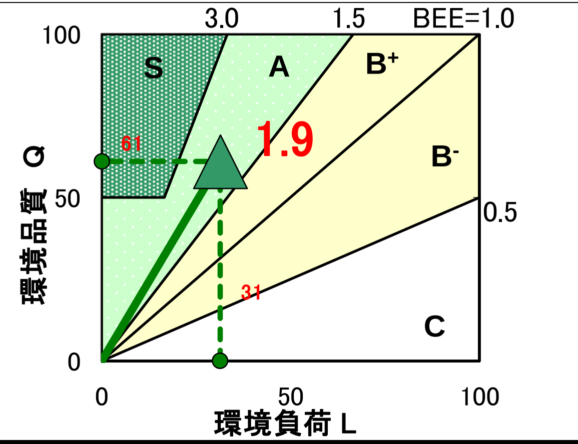
建物名称	(仮称)第3老人福祉センター	階数	地下0階地上1階
建設地	愛知県小牧市大字久保一色954番地の1 外 24筆	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、第2種住居地域	平均居住人員	512 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,468 時間/年
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年12月　予定	評価の実施日	2022年12月27日
敷地面積	5,025 ㎡	作成者	松田晋征
建築面積	2,291 ㎡	確認日	2022年12月27日
延床面積	2,228 ㎡	確認者	松田晋征

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

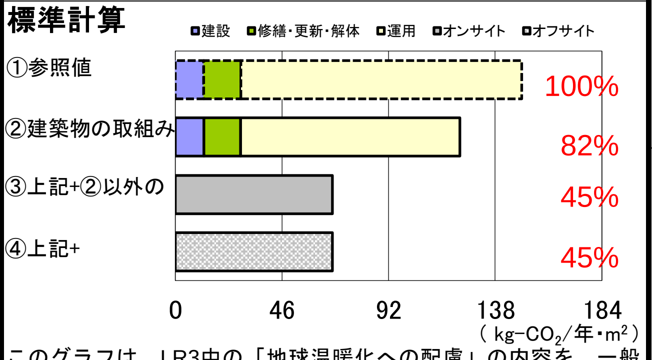
BEE =1.9 ★★★★

S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★



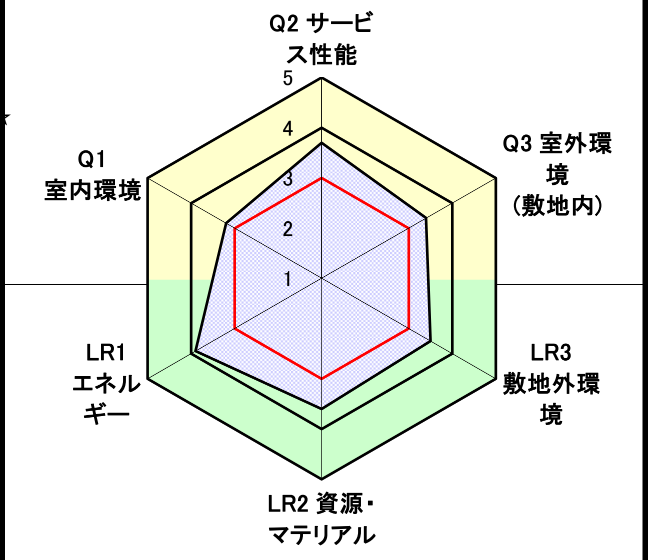
2-2 ライフサイクルCO_2（温暖化影響チャート）

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

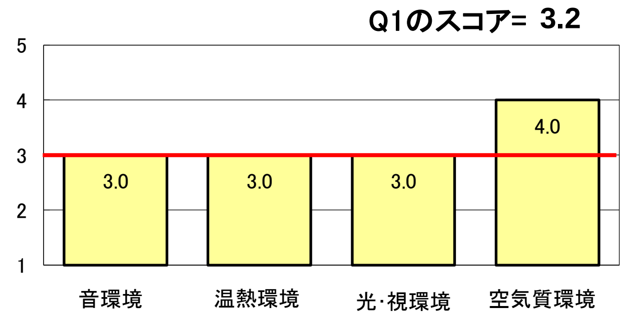
2-3 大項目の評価（レーダーチャート）



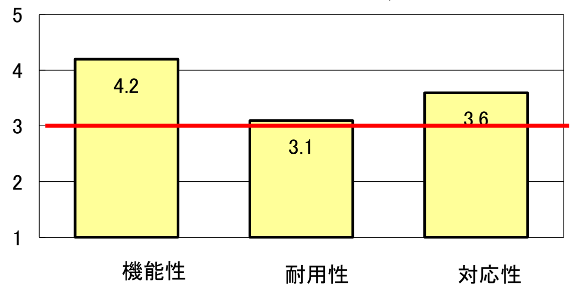
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　　*Q のスコア=　3.4*

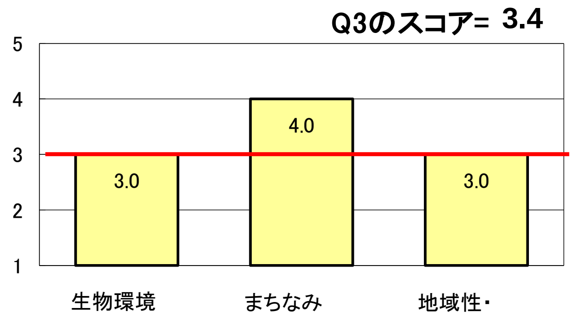
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.2



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.7

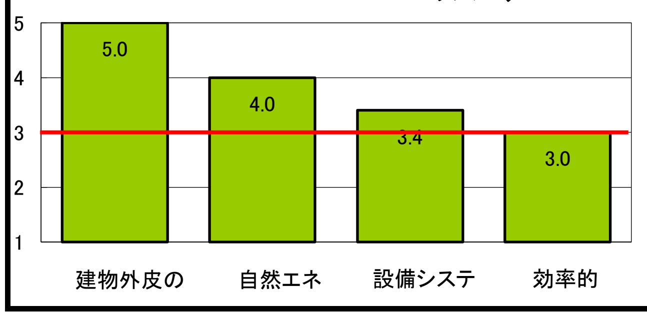


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 3.4

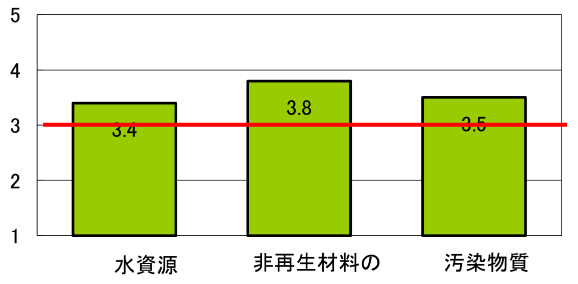


LR 環境負荷低減性　　*LR のスコア=　3.7*

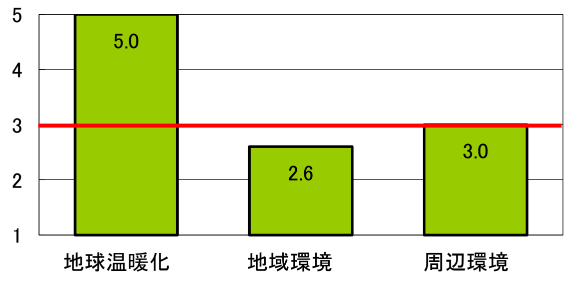
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.9



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.6



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.5



3 重点項目

①地球温暖化への配慮

5. 0

③敷地内の緑化

3. 0

外構緑化指数（外構緑化面積/外構面積）

8.1 ％

建物緑化指数（建物緑化面積/建築面積）

0.0 ％

②資源の有効活用

3. 5

④地域材の活用

1. 0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。
①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数＝ 中高木の樹冠の水平投影面積＋低木・地被等の植栽面積 / 敷地面積から建物面積（建築面積及び附属物面積）を除いた ×100

建物緑化指数＝ 屋上緑化面積＋壁面緑化面積 / 建築によって占有された部分の水平投影面積（法定面積） ×100

CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き

(仮称)第3老人福祉センター

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	独自基準 / 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質									**3.4**
Q1 室内環境					0.40			-	**3.2**
1 音環境			0.1	**3.0**	0.15	-	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル			3.0	**3.0**	0.40		-	-	
1.2 遮音			0.4	**3.0**	0.40		-	-	
1 開口部遮音性能			-	3.0	0.40		-	-	
2 界壁遮音性能			-	3.0	0.60		-	-	
3 界床遮音性能（軽量衝撃源）			-	3.0	-		-	-	
4 界床遮音性能（重量衝撃源）			-	3.0	-		-	-	
1.3 吸音			-	**3.0**	0.20		-	-	
2 温熱環境			0.3	**3.0**	0.35	-	-	-	3.0
2.1 室温制御			0.5	**3.0**	0.50	-	-	-	
1 室温			3.0	3.0	0.38		-	-	
2 外皮性能			3.0	3.0	0.25		-	-	
3 ゾーン別制御性			3.0	3.0	0.38		-	-	
2.2 湿度制御			3.0	**3.0**	0.20		-	-	
2.3 空調方式			3.0	3.0	0.30		-	-	
3 光・視環境			0.2	**3.0**	0.25	-	-	-	3.0
3.1 昼光利用			0.3	**3.0**	0.30	-	-	-	
1 昼光率			3.0	3.0	0.60		-	-	
2 方位別開口			-	-	-		-	-	
3 昼光利用設備			3.0	3.0	0.40		-	-	
3.2 グレア対策			0.3	**3.0**	0.30	-	-	-	
1 昼光制御			5.0	3.0	1.00		-	-	
3.3 照度			3.0	**3.0**	0.15		-	-	
3.4 照明制御			3.0	**3.0**	0.25		-	-	
4 空気質環境			0.2	**4.0**	0.25	-	-	-	4.0
4.1 発生源対策			0.5	**4.0**	0.50	-	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材をほぼ全面採用	3.0	4.0	1.00		-	-	
4.2 換気			0.3	**3.5**	0.30	-	-	-	
1 換気量		居室面積の1/30以上	3.0	4.0	0.50		-	-	
2 自然換気性能			3.0	3.0	-		-	-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	3.0	0.50		-	-	
4.3 運用管理			0.2	**5.0**	0.20	-	-	-	
1 CO_2の監視			3.0	3.0	-		-	-	
2 喫煙の制御		全館禁煙	3.0	5.0	1.00		-	-	
Q2 サービス性能				–	0.30		-	-	**3.7**
1 機能性			0.4	**4.2**	0.40	**1.0**	**1.0**	1.00	4.2
1.1 機能性・使いやすさ			0.4	**3.0**	0.40	-	-	-	
1 広さ・収納性			3.0	-	-		-	-	
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-		-	-	
3 バリアフリー計画	独自	移動等円滑化整備基準を満足	3.0	3.0	1.00		-	-	
1.2 心理性・快適性			0.3	**5.0**	0.30	**1.0**	**1.0**	1.00	
1 広さ感・景観　（天井高）		天井高2.5m以上確保。勾配天井を活かした広がりある空間	3.0	3.0	-		-	-	
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-		-	-	
3 内装計画		地域の「結いの森」をコンセプトに温かみのある内装	3.0	5.0	1.00		1.0	1.00	
1.3 維持管理			0.3	**5.0**	0.30	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		庇により外壁が汚れにくい外装	3.0	5.0	0.50		-	-	
2 維持管理用機能の確保		トイレに掃除用具入れ、掃除流しを設置	-	5.0	0.50		-	-	
2 耐用性・信頼性			0.3	**3.1**	0.31	-	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.4	**3.0**	0.48	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		重要度係数　1.25	3.0	3.0	0.80		-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20		-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	**3.0**	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			-	3.0	0.23		-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		-	3.0	0.23		-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	3.0	0.09		-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	3.0	0.08		-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			-	3.0	0.15		-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.23		-	-	
2.4 信頼性			0.1	**4.0**	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備		バックアップとしてプロパンガス利用可能し、熱源を2重化	3.0	3.0	0.20		-	-	
2 給排水・衛生設備		災害時避難所として機能する計画	3.0	5.0	0.20		-	-	
3 電気設備	②		3.0	3.0	0.20		-	-	
4 機械・配管支持方法		建築非構造部材の分類：A類	3.0	4.0	0.20		-	-	
5 通信・情報設備		防災無線を設置	3.0	5.0	0.20		-	-	

3 対応性・更新性			0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		階高4.2m	-	5.0	0.60		-	-	
2 空間の形状・自由さ		内壁を乾式壁とし、将来改修に対応できる計画	3.0	4.0	0.40		-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31		-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.3	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性		構造部材を痛めずに修繕・更新可能	3.0	4.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保		屋上に将来用設備基礎設置	3.0	4.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境（敷地内）				－	0.30		-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	3.0	0.30		-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	周辺景観に調和	-	4.0	0.40		-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	玄関庇を設置。通風採光を意図した開口部を設置	-	4.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-			-	3.7
LR1 エネルギー				－	0.40		-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.61	3.0	5.0	0.30		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		ハイサイドライト設置	3.0	4.0	0.20		-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.78	3.0	3.4	0.30		-	-	3.4
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル				－	0.30		-	-	3.6
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ+省水型便器の採用	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.8	0.63	-	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	－	-	3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	インター—ロッキングブロック、DR（1）、TCP（1）	3.0	5.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	3.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体と仕上げを容易に分別可能な計画	3.0	5.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.5	0.22	-	-	-	3.5
3.1 有害物質を含まない材料の使用		用途上、有害物質を含まない建材を使用	3.0	4.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.3	0.68	-	-	-	
1 消火剤		移動式粉末消火設備使用	-	4.0	0.33		-	-	
2 発泡剤（断熱材等）			-	3.0	0.33		-	-	
3 冷媒		自然冷媒を使用	3.0	3.0	0.33		-	-	
LR3 敷地外環境				－	0.30		-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率45%	-	5.0	0.33		-	-	5.0
2 地域環境への配慮			0.3	2.6	0.33	-	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.7	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制	独自	駐車台数92台	-	5.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		回収車の寄り付ける位置にゴミ置場を設置。	-	4.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	1.00		-	-	
2 振動	独自		-	-	-		-	-	
3 悪臭			-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制			-	3.0	-		-		
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70		-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策			-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

(仮称)第3老人福祉センター

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				5.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:8.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式
各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア＝各配慮項目の評価点

②資源の有効活用
重点項目スコア＝ (評価点×全体に対する重み)の総和 / 重みの総和

④地域材の活用
重点項目スコア＝評価ポイントの合計＋1

■　環境設計の配慮事項

■建物名称　（仮称)第3老人福祉センター

計画上の配慮事項	
総合	注）設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 地域の健康老人のための「結いの森」として、「交流」「安心安全」「快適」「防災」をキーワードに敷地周囲の豊かな自然や光、風を取り込んだ開放的な空間を計画する。また、地域の安心安全の拠点として、いざという時の福祉避難所としての機能も併せ持つ計画とする。
Q1 室内環境	注）「Q1　室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 東西に長い建物形状として西日の影響を少なくして適切な温熱環境としながら、勾配屋根を活かした高窓を配し、十分な採光と空間的広がりを確保する。音が干渉しあう恐れのある集会室と機能回復訓練室は遮音壁として開口部を離して計画し、会議室・マッサージ室・創作室・教養娯楽室と廊下の間の壁は遮音壁としている。
Q2 サービス性能	注）「Q2　サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 過度な大空間など不安な要素は排除しながら、勾配天井を活かした広がりを持たせている。老人の利用に配慮し、バリアフリー計画としている。ディティールは日常的なメンテナンスのしやすい材料を選ぶ計画とする。
Q3 室外環境（敷地内）	注）「Q3　室外環境（敷地内）」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 廊下端部は窓を設け、建物中央部には中庭を設けることで、光と風を取り込める解放感ある計画としている。浴室棟はプライバシーに配慮しながらも、広がりを感じられる窓を設置して自然採光を取り入れる計画としている。
LR1 エネルギー	注）「LR1　エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 メンテナンスのしやすい位置に落下防止に配慮しながら高窓を設置し、自然採光通風が十分可能となるように配慮する。
LR2 資源・マテリアル	注）「LR2　資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 便器など節水型の機器を採用する。外構や仕上材などにリサイクル建材を導入する。
LR3 敷地外環境	注）「LR3　敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 平屋建ての勾配屋根として、隣接敷地への日影や圧迫感に配慮した計画を行った。河川を跨いで南側駐車場敷地に直接出入りできる歩行者動線を確保し、歩車分離に配慮した計画としている。
その他	注）上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。